

A.斎場施設に関連する課題と現況、その対応・中津川市への要望		
1.最新の火葬場施設建設	地域の現況・主な意見	対応・市への要望
1)最新施設設備	・昭和40年代までは辻原墓地で火葬をしていた。風向きが悪いとすごい臭いはしてきたが、それに文句は言わなかった。豊橋市の最新火葬場を視察したが、最新施設にはそうした心配はない。 ・最近名古屋「八事霊園」や多治見「華立やすらぎの森」の斎場に出向いた方の感想も同様に心配ない意見が聞かれる。	・最新施設への視察会の実施（12/22実施） ・現在の日本の最新設備（無臭、無煙）で対応されたい。焼却に伴うダイオキシン、粉塵、有害物質、臭い等を最新の濾過技術を導入した環境基準以上のクリーンな排煙とされたい。（「火葬場から排出されるダイオキシン類削減対策指針」(平成12年3月)） ・環境影響評価の実施
2）リニア駅からの半径距離	・リニアにより様変わりする可能性、発展する可能性が、地域の真ん中に火葬場を建設することで、発展の可能性がなくなる。	・リニア建設、整備によるプラスイメージの一方で、その一角になる火葬場建設がイメージダウンとならないように最大配慮をされたい。 ・視察した豊橋市では、火葬場建設後も周囲に住宅が建設されてきている。先進地視察を再度行い、状況を確認すること。
3）火葬場、霊柩車の心理的イメージ	・目の前に火葬場ができる方々の心情を思うと、人目につかない場所での建設が良い。 ・辻原の悪い風評となる。 ・近隣住民の声を最大限尊重し、寄り添っていただきたい。 ・火葬場や霊柩車は、心情的に耐えられないし、子供達には見せたくない。 ・人口が減少する中、火葬場が建設されれば、益々人口減少となる。 ・都市部での葬儀業者の宣伝は、死を直接的に表現するのではなく、サービスの質、信頼性、そして必要な情報の提供に焦点を当てて、個人を敬う気持ちを前面に出してマイナスイメージの払拭を図っている。 ・宗教的なことだが、人の「死」は生老病死の1つであり、受け入れていくものであり、「死」は忌み嫌うものでもなく、受け止めていくものとした啓発活動が必要と思われる。	・もしメモリアル施設が建設される場合、センシティブな話題を扱いながらも、顧客(ご親族、関係者等)のニーズに応える有効的、効果的な宣伝を行うことで、次第にマイナスイメージが緩和されると思われる。そうしたことも含めた地道なイメージ払拭活動を継続してもらいたい。
4）ため池浸水想定区域	・ため池浸水想定区域であり、リスクの高い場所は避けるべき。 ・火葬場計画箇所は中津川市土砂災害ハザードマップで土砂災害とため池の浸水想定区域に指定されていることから市の防災対策並びに都市計画と不整合である。また大規模地震時上流にあるため池が決壊した場合に発生する水害等を考えると建設地として相応しくない。	＊B.地域課題に記載
5）親族の移動時間	・市内葬儀場から40分以内の距離	
6）建物建設による景観	・火葬場は景観が悪いと、子どもが近くに住みたくないと言う。 ・作ることは良いが景観が気になる。 ・景観が良くても火葬場に変わりはない。目の前に建設されるのは嫌だ。 ・斎場を造ること自体は反対ではない。ただし、いかにも公共施設然とした単機能の施設を造るのではなくランドスケープとして設計されることを期待したい。 ・里山で暮らす人たちが、最期に里山の自然に帰っていくような場所、風景の中で違和感なく溶け込むような場所を作ってほしい。	・誰が見ても「え？あれが火葬場なの？」「あれくらいならおれも焼いてもらってもいいか」と思えるような斬新なデザインでの設計 ・近辺地形や自然と調和するデザイン ・建設後の火葬場存在感を可能な限り緩和した施設デザイン
7）施設近辺の交通安全	・交通量の瞬間的増加（火葬、骨上げへの往来）による通勤、通学路の安全を確保してほしい。	・建設予定地とその近辺施設（研修センター、道路、辻原橋）のリモデリングと施設への安全を確保できる進入路の検討。 ・建設された際のメモリアル施設への右左折車両に対しての追突事故等を防ぐ道路の拡張工事を同時にされたい。 ・上記道路工事の際に、通学路の安全は横断手段を含めた工事とされたい。
8）その他	・建設のタイムリミットのことは、市民はたぶん誰も知らない。市側にも責任があると思います。 ・建設地が決まった場合、その地域に対して市民は「火葬場ができるらしいね。大変ね」という同情心程度。火葬場の最新化、建設の必要性をもっと広報していく必要がある。 ・火葬場からの排水は、川の水を農業利用して農業をしている者にとっては、感情的に受け入れられない。たとえ火葬自体に廃水が無く火葬場からの排水は、トイレや事務所の排水に限ったとしても農業者の心理として受け入れ難いものがある。 ・地価下落のリスク：火葬場近辺の地価が下落する心配がある。 ・地元の人が火葬場内で働けるようにしてほしい。	・火葬場建設のニーズ、候補地から絞り込み、建設地を決定して行くことの広報がもっと必要であると思われる。 ・メモリアル施設からの排水は雨水のみになると説明があり、理解をするところであるが、心情的な面もあるので、今後理解を促進できるよう対策を講じられたい。 ・固定資産評価額は不変 ・建設された場合の辻原地区希望者の優先的な雇用機会の創出

B.辻原に限定した地域課題と現状及びその対応・中津川市への要望		
2. 農業基盤・条件の整備	地域の現状・主な意見	対応・市への要望
20 1) 農業後継者不足	・農業者は、3～4人ぐらいいなり、荒廃農地が目につくようになっている。 ・1組も荒廃農地が点在してきており、10年先を見た時、現在農業者21名（作業委託含む）が自作農業者は2～3人となり、益々荒廃農地の増大が予想される。農地の荒廃は「法面・水路の崩壊による災害発生、病害虫・鳥獣害の発生、ゴミの不法投棄、火災発生のリスクが高まるので心配。 ・恵那峡ロードの辻原部分は“今、農業をやっている家がやめてしまったらどうなるか”想像するだけで、荒れ果てた景色になります。私は斎場を受け入れる事を無条件に賛成するものではありませんが、これをデコにして、市がこういう農業地帯の活性化に本気で取り組むことを願っています。	・伝統的な家制度の変容、産業構造の変化、人口の都市部への集中など社会情勢変化の影響は、辻原地区も例外ではない。しかし、変化の流れに無策に過ぎれば、なお一層の悪循環になっていく。現在の流れを良循環に変える仕組みづくりや施策が求められる。 ・これまでの生活基盤であった農業をさらに生かした様々な施策と、新たな経済・産業の取り込みを進め、統合した地域発展計画の早急な策定を要望。
20 2) 農用地転用の規制	・辻原の農地は圃場整備がされ、宅地化が容易にできないよう規制されている。 ・建設後、辻原の発展の足掛かりになると良い。	
20 3) 農業用水の水利不安	・辻原1は末端のため西部揚水の水量確保に苦労する。 ・辻原2組は千旦林川からポンプアップしているが、施設が老朽化し今後の継続に不安が大きい。	
1 4) 辻原の人口減少	・今後、辻原の人口は減少してくる。火葬場が出来ることでその他の業者参入の可能性、宅地化の可能性が増える。 ・このまま何もしなくても人口減少は進む。自分自身も、20年後にはこの世にはいない。 ・辻原の将来、10年後、20年後を考える機会である。 ・地域の活性化には、まず人がいなければならないと思います。特に若い世代、子どもがたくさんいる事が必要だと思います。今後、この地域を発展させていく上で、子ども世帯を増やす為に、子どもが安全で、過ごしやすい環境作りを目指してほしいと思っています。通学路もそうですし、地域外の子ども達も集える場所があると良いのかなと思います。人を増やすには、他所から誘致するしかないと思いますし、誘致できる魅力ある地域作りをお願いします。	
1 5) 高齢化	・買い物にも難渋	
7 6) 空き家問題	・現在も数件の空き家があり、今後も増えていくことが予想される。	
3. インフラ整備	地域の現状・主な意見	対応・市への要望
4 1) 交通インフラ：農道・旧道の交通量、交差点の交通安全	・庚申様の前に、歩道橋、地下道が信号の設置を望む。 ・道路・河川・インフラ整備等を要求したところで、夢物語に終わる可能性が大である。 ・交通インフラは、子ども達も安心して通学できるような遊歩道を整備し、健康づくりにも役立つウォーキングコースも併設する。 ・農道から工業高校までの道路拡幅	・安全な恵那峡ロードの横断手段の確保 ・生活の利便向上をめざした生活圏内の道路拡幅の推進 ・下洗井から「辻原橋」までの道路の拡幅延伸と通学路の確保
3 2) 防災インフラ：①辻原川の治水、②辻原橋の架け替え ③災害発生時の防災計画	・発災時の浸水地域 ハザードマップ 護岸改修が必要 ・火葬場計画箇所は中津川市土砂災害ハザードマップで土砂災害とため池の浸水想定区域に指定されていることから市の防災対策並びに都市計画と不整合である。また大規模地震時上流にあるため池が決壊した場合に発生する水害等を考えると建設地として相応しくない。 ・南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない状況下であるが、減災のための準備が大切である。そのため、メモリアル施設周辺を整備する際は、単なる公園を整備するのではなく、防災設備を備えた公園（備蓄倉庫、耐震性貯水槽、揚水ポンプ、かまどベンチ、防災バーゴラ、デジタルサイネージ、マンホールトイレ、防災あずまや、太陽光発電施設、ヘリポート）を設置し、年に1回、公園内のこうした設備を活用した地域の防災訓練を実施し、区民の防災意識を高めていけるとよい。	・坂本北部の防災計画の策定 ・護岸改修の事業化を要望 ・辻原橋の整備、架け替え
13 3) 公共インフラ：自治会集会所の老朽化	・辻原地区においては、昔から自治会全体意外にも無尽の集まりや諸団体の活動、祭事など伝統的に活発に行われており、クラブは重要な拠点施設である。 ・今後、世帯が減少していけば、クラブの維持管理費や、新築する場合の各世帯への負担が大きくなる。 ・辻原1組集会所施設の建替え時に、防災機能の併設や、辻原1組出身の漫画家の故荻野真記念館を建設できるとよい。	・辻原1,2の自治会館の老朽化を受け、今後の地域発展の要となるクラブの改修を要望する。 ・クラブの維持管理に関わる経費を行政負担で進めるための方策を検討されたい。
4. 地域文化・歴史の継承	地域の現状・主な意見	対応・市への要望
23	・大正時代から始まった辻原地域の開拓と地域の伝統祭事が失われつつある。	

C.坂本北部などエリアで考える地域課題と現況及びその対応・中津川市への要望		
5. 産業・経済の活性化	地域の現況・主な意見	対応・市への要望
16 1) 企業・商業施設の誘致とそこの雇用	・茄子川地域の工業、商業の発展、人口増加に対して、千旦林、特に北部において発展性がない。 ・辻原の発展だけではなく、坂本北部という広いゾーンでの発展です。中津川市政として、どのような将来発展のイメージを持っているかは重要です。対比する茄子川地区は、工業団地、その周辺の住民増加、自動車や電機、食品、生活用品とさまざまな商業施設が出来ています。それは工業団地と誘致活動を先導した市政(時の市長は辻原の小池市長)によるところが大きいです。 ・農振の規制解除に向けて、北原・辻原・二軒屋地区と情報の共有を行い、解除に向け13区区长名のみでなく、3区長連名で陳情書を県議会等に働きかけを是非行ってほしい。	(前述) ・伝統的な家制度の変容、産業構造の変化、人口の都市部への集中など社会情勢変化の影響は、辻原地区も例外ではない。しかし、変化の流れに無策に過ぎれば、なお一層の悪循環になっていく。現在の流れを良循環に変える仕組みづくりや施策が求められる。 ・これまでの生活基盤であった農業をさらに生かした様々な施策と、新たな経済・産業の取り込みを進め、統合した地域発展計画の早急な策定を要望。
16 2) リニア開通を活かした観光・商業の促進	・リニア開通も視野に入れ、近隣で生産される農産物を中心に販売できるような「道の駅」を併設し、遠方からの利用者も取り込み、地域住民に還元できるような仕組みづくりを目指す。	
15 3) 公園やレクリエーション施設の整備	・辻原が発展するかは、市が辻原地区をどのようなビジョンでまちづくりをしたいのかだがか全く不明。 ・全天候型の公園＝辻原公園	
19 4) 地元農業食材を生かした「食の健康」関連産業の創造	・発展のキーワードは・・・「ウェルネス」 中津川市民病院から坂整形外科までの恵那狭ロード沿いに健康、福祉、保健に関わる様々な仕組みを作っていく。地域住民以外からの訪問も受け、お金を落としてもらい、市として法人税の見返りを受ける。 ・火葬場には、温熱を利用した温水プールを設置する。できればラドンを入れた温泉施設やアスレチック施設も併設をする。 ・各診療科のクリニックを誘致する。そのための用地取得で、緩和的に農振の制約を解除できるよう取り計らう。 ・障がい者施設の「飛翔の里」をもっと子供、発達に関わる機能を充実させて、共生社会につなげていく。 ・健康食、薬膳、ヘルシー、ダイエットなどを提供する健康グルメ館を創設。誰もが再び訪れる、あるいはぶらっとご飯を食べに行く場所を作る。その食材は、周辺の契約農家による栽培で賄い、今ある農業を活かしていく。農用地を活用し、そこで地元の方の労働場所が生み出される。Uターンで帰ってきて、地元で働く若者を迎え入れる。若者が住めば、結婚、子供、人口増加に進む。にぎやかな坂本北部に変容する。 ・ふるさと納税で健康食品やグッズを提供する。 ・坂本北部に行けば、健康、長生きの秘訣があるというゾーンを作り出していく。 ・地域包括ケアの推進拠点も整備していく。高齢者の通所・入所施設の建設誘致。 いかがでしょうか？ 今回、建設地がほかの地区となり、辻原は関係ない地区であっても、こうしたビジョンを市政の方針として今後推し進めることは、中津川市が全国に発信できる成功都市にもなります。	
29 6. 「コンパクトシティ化」の促進	地域の現況・主な意見	対応・市への要望
	・斎場の建設に伴い、周辺地域の発展を促すことを目的に「コンパクトシティ化」を目指す	・坂本北部のゾーンに包括的・総合的な様々な地元生活者のニーズ充足の仕組みを創出する。その為の都市計画の策定を推し進められたい。
	・茄子川にない機能として、中津川市民病院に始まり坂整形外科までの農道沿いに、様々なクリニックが誘致できることや高齢者福祉、飛翔の里を中心にした障害者福祉などの領域とその関連企業等で発展するような街づくりを描く。	